

巻頭言

佐々木 実

キャリアセンター長（工学部教授）



佐々木センター長

近年、大学進学率は高くなっていますが、その分、目的を失ったまま大学生活をやり過ごし、「社会人とは何か」「就業とは何か」という自覚を持たないまま卒業してしまう学生が多くなっていると思われます。これを受け、本学では「就職支援室」を発展させ、平成23年4月に本学にキャリアセンターが設置されました。

今までどおり就職活動に必要な情報やノウハウを提供していくのはもちろん、社会に出て働くことの意味や、学部学科で得た知識や経験が社会にどう役立つかを、学生がイメージしやすいようアシストしていきたいと考えています。例えば、各学部教員・同窓会・産学融合本部と連携し、専門科目と実際の職業との関連性を分かり易く説明するため、企業やOBを招いた講義や懇談会も検討しています。また、修士課程1年をメインに実施されているインターンシップを、学生が希望するならば各学部1・2年次からでも実施できるよう、受入れ先企業の確保をはじめ、単位・評価の設定などの仕組みづくりにも取り組んでいきます。いずれにしても、学部・学生の実情とニーズを把握しながら、今年1年かけてプログラムを完成させていく予定です。これが実現できれば、現状の課題とされる「就職のミスマッチ」を少しでも排除し、これまでより一層、世の中に必要とされる優秀な人材を数多く輩出させていくことができるのではないかと考えています。

大学での学びは、何も学業に限られるものではありません。たくさんの人との出会いや関わりを求め、新しい気づきや価値観を育てていくのも、この時期ならではの特権ですから、学内外を問わず学生が自主的に行う活動に対し、当センターはバックアップしていきたいと考えています。さて、その中で第一に考えられるのがサークル活動ですが、クラブ活動に専念している学生はコミュニケーションや社会性に長け、リーダーシップ、マネジメント能力などの素養を自然に身に付けている場合が多く、「キャリア形成」の点からも重要なファクターになっていると考えられます。また、学生の自主活動は、学内だけではなく、ボランティアや地域コミュニティなど広く学外に及んでいることも認識しています。そうした学生を、どう支援していくかは、学生全体の実態・動向と、どんな援助を必要としているのかを調査・分析した上で具体的な体制づくりを進めていきたいと考えています。

巷には就職に関する情報が溢れています。でもその情報に振り回されず、学生達には自分の目指す方向を純粋に探って欲しい。そして新たに設置された「キャリアセンター」を大いに活用していただければと思います。また、皆様のご支援・ご援助・ご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

キャリアセンターの紹介

キャリアセンターは平成23年度に大学会館1階に設置されました。本センターでは、皆さん一人ひとりが社会的・職業的自立を図れるよう、全学的立場からキャリア形成、自主活動支援、就職支援等を行っています。また、大学生活でのキャリア形成における様々な問題や悩みの相談にも応じています。

キャリアセンターでは以下のようなサポートを行っています。

キャリア形成支援

キャリア形成支援に関しては、キャリア形成科目のコーディネートや既存の授業科目におけるキャリア志向学習並びに、ポートフォリオの作成に関するアドバイス等行っています。

また、キャリア形成に資する学生の自主活動の支援に関しては、学生サポーターの募集・組織化と学生スタッフの援助を行っています。

求人情報の提供

本学への求人情報については、求人票や募集要項のファイルによる閲覧のほか、パソコン7台により検索ができます。

また、関連図書、新聞、雑誌など就職活動に関する参考資料も取り揃えています。

なお、求人情報・企業情報やイベント情報などは、就職情報支援システムにより自宅や大学のパソコンから確認できます。その他同システムには就職活動サポートのための各種機能を備えています。

就職活動に関する相談

就職活動に関する疑問や悩みについて、スタッフによる相談を行っています。(随時)

また、就職活動支援アドバイザー・外部就職相談員によるエントリーシート・履歴書の添削、面接指導など就職活動全般にわたるアドバイスも行っています。(要予約)

各種行事の実施

専門講師による就職ガイダンスを6～12月にかけて十数回開催しています。

また、2～3月にかけて集団模擬面接を希望者全員に実施しています。

連絡先

岐阜大学キャリアセンター
〒501-1193 岐阜市柳戸1-1

キャリアセンター

電話 058-293-3393

メール career@gifu-u.ac.jp

就職支援室

電話 058-293-2147・3362

メール job@gifu-u.ac.jp



就職支援室利用風景

● 学生のボランティア活動 ●

ひまわりの黄色は鮮やかに

宮 武 理 奈

教育学部社会科教育講座哲学専攻2年

私は8月19日から23日にかけて宮城県石巻市の沿岸地域で被災地ボランティアに行ってきました。NPO法人「校舎のない学校」という団体として、40人のうちの1人として活動してきました。私たちが寝泊まりさせていただいた「国立花山青少年自然の家」までバスで12時間かかるので実質5日間のうち中3日間の活動でした。

主な活動として20日に瓦礫撤去、21日・22日に思い出の品の清掃をしてきました。自然の家から活動場所までは車でさらに2時間ほどかかりました。現場近くではカーナビで道として示されている道が実際には川のようなものでした。何かを探索しているボートの姿もありました。瓦礫撤去の作業では車が通れるように道に広がった瓦礫を片付けました。その「瓦礫」と呼んでいるものは元々ここで暮らしていた方たちの家財道具や日用品などです。漁に使われていたと思われる大量の網や浮が泥の中から次々に出てきました。足元の泥に大量の釘が紛れていたため鉄板入りの長靴を履いての作業でした。泥の中からは写真やアルバムも出てきました。偶然その場に家主の方がいらしていました。「家主」と言ってもそこには骨組みしかありません。出てきた写真には息子さんが写っていたようで、その方にお見せしたところ捨ててくれとおっしゃったそうです。共に作業していた友人から聞いたことなのですが、その息子さんは津波の被害で亡くなられたそうです。ここで咲くひまわりの花の黄色が妙に鮮やかに見えました。

思い出の品の清掃は近くの体育館で行いました。瓦礫や泥の中から出てきた写真をきれいにして新たにアルバムの形にしていきました。瓦礫撤去の際に見つかったアルバムもここにきていました。写真以外に本や書類なども刷毛できれいにしていたのですが、大変もろく、気を付けて作業しても紙がボロボロになってしまうものもありました。その他にランドセルや通学帽子等も並べられていました。震災直後から置かれているが、引き取られていない品々も数多くあるようでした。

ここで見た遺品を含む品々、骨組みだけの家屋、捜索中のボート、どの光景もこの先一生忘れることはないと思います。いや、忘れてはいけないと思います。実際に石巻の土を踏み、臭いを嗅ぎ、自分の目で見た光景は本当にリアルなものです。今、この時撮った写真を見返しても胸が苦しくなります。私たちにとってはたった3日間の光景です。しかし石巻の人たちにとってはそれが日常であり、生活であり、生きる世界です。

被災地に実際に足を運ぶということは容易なことではありません。それに、私たち一人一人にできることはちっぽけなものです。しかし無力ではありません。だから忘れないで、記憶に留めておいてください。この先もずっと、地震の爪痕が消えることはないのです。



ひまわりの花と被災地

● キャリア形成の自主的活動 ●

第1回リアル熟議 「よりよい就職のために」

原 田 剛 志

岐大発！熟議推進委員会委員長

2011年6月17日、岐阜大学で就職問題の解決策を話し合うイベントが開かれました。学生と社会人、教員、行政職員の総勢100余名が机を囲み、就職活動に関する課題とその改善策について話し合いました。イベント開催の背景には深刻化する就職問題があります。近年、学生と企業のミスマッチによる早期離職や就職活動の早期化、企業が求める人材と大学教育の在り方の不一致、就職難による就職浪人の増加など様々な問題が取り上げられています。これら深刻化する就職問題の改善に向けたキック作りを目的として開催されました。

議論の中で挙げられた課題として、学生自身の課題と社会システムの課題とがあります。学生自身の課題には、就職に対する意識不足、主体性の低さ、チャレンジ精神の低さ、自分自身に対する理解不足、社会に対する知識不足などが挙げられています。社会システムの課題には、社会で活躍するための訓練の不足や、働く社会人との接点が少ないことによるリアルな情報を得る機会が不足していることなどが挙げられています。

これらの課題を改善する方法として、キャリアプランを明確にして就業意識を高めることや、中長期の実践型インターンシップを通して実社会で訓練すること、社会人と出会う機会に積極的に参加し、活躍している社会人から多くを学ぶことなどがアウトプットされました。私たち学生はこれらの要点を意識して行動し、企業と大学はこれらの機会を増やし、行政はこれらの機会を充実させるための仕組みを作る必要があります。これから確実な一歩を踏み出すことで、就職問題の改善に繋がります。

本企画を開催するにあたり、私たち10名は3カ月間毎週ミーティングを開き議論を重ねてきました。その間、岐阜大学の先生方や職員の方、企業やNPOの方々、行政の方など多くの方にご協力頂きました。この場を借りて深く御礼申し上げます。



グループ討議の様子

第2回キャリアセンターFD研究会開催

キャリアセンターでは、平成23年5月24日（火）労働政策研究・研修機構 キャリアガイダンス部門下村英雄副主任研究員を基調講演講師にお迎えし、キャリアセンター発足記念第1回キャリアセンターFD研究会を開催したのに引き続き、11月2日（水）地域科学部第1会議室において、法政大学キャリアデザイン学部の児美川孝一郎学部長を特別講演講師にお迎えし、第2回キャリアセンターFD研究会を開催しました。

本FDは、「学校から仕事へ」の移行過程が長期化・複線化し、就職環境が大きく変容する中で、学生の主体的な生き方の選択、自主的なキャリア形成のために大学に何が求められているのか、現代の若者、学生の現状から、教職員、学生とともに考えることを目的に開催されました。

当日は、佐々木センター長の開催挨拶、森学長挨拶に引き続き、児美川孝一郎先生から「大学におけるキャリア支援・キャリア教育の課題」と題して、興味深い講演をいただきました。講演後には聴講した先生方から活発な質問があり、休憩後引き続き開催された児美川先生を囲んでの懇談会でも積極的な発言があり、大いに盛り上がりました。アンケート結果も大変好評で、有意義な研究会となりました。



FD研究会の様子

● 学部における就職・キャリア形成支援の取り組み ●

地域科学部

三井 栄

地域科学部就職委員長

地域科学部卒業生の就職状況の特徴は、公務員になる割合が相対的に高いものの、金融・保険業、卸・小売業や製造業をはじめその他の業種にも満遍なく就職しており、現在は多様な業種への就職が定着しています。

地域科学部では専任教員の全員が就職支援活動に関わる体制を確立するとともに、専門セミナーを中心とした教員やOB・OGとの日常的な交流を通して、「就職力」＝「労働現場で通用する能力」の育成をめざして、就職支援を行っています。たとえば、全教員による企業訪問を実施し、複数の卒業生の就職実績のある企業の人事担当者の方々との面談を通して、就業状況を把握すると同時に、「育てるべき学生像」の点検・確認のための資料としてフィードバックを行っています。

また、3年生の11月初旬に学部独自のキャリアガイダンスを実施しています。今年度は、前半の部で民間企業で採用担当をなさっていた方を講師として招き、企業が求める人材や就職活動の心構えについてご講演をいただきました。続いて後半の部では、金融・保険業、製造業、情報通信業、官公庁など様々な業種に内定した4年生9名を交え、5グループに分かれて、各企業のエントリーシートや面接の状況、スケジュール管理の仕方など実際の就職活動体験を振り返りながらグループ

ミーティングを行いました。参加者は「身近な先輩の話が参考になり、いろんな質問をすることができ意識が高まった」、「人事担当者だった方の貴重なお話は具体的なイメージにつながった」ようで、有意義なガイダンスとなりました。

今後は地元企業と学生の間における求人と求職のミスマッチを少なくするためにも、岐阜県内の企業へのインターンシップや地元企業の人事担当者との懇談会などの機会を設けることなども予定しています。



11月9日キャリアガイダンスの様子

キャリアセンターニュース編集委員

委員長 佐々木 実（キャリアセンター長）	委員 今井 健（キャリアセンター特任教授）
委員 酒光 伸嘉（課長補佐・就職支援室長）	委員 籾田 薫（キャリアセンター参与）